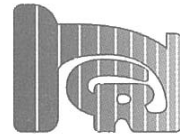


フィリア・レター

～真の友人からの手紙～



発行所:中部ろうさい病院

〒455-8530

名古屋市港区港明 1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>



院長就任のご挨拶

院長 吉田 純

中部ろうさい病院に通院される患者さんとそのご家族の皆様、はじめまして。私は昨年11月に特別顧問として当院に着任し、本年4月1日付けで院長に就任しました。昭和44年に名古屋大学を卒業し、昭和57年より26年間、教官として、また13年間は教授として名古屋大学に奉職し、脳外科領域を中心に、臨床、研究、教育に従事してきました。特に生命科学と科学技術の進歩に基づいた、新規医療の開発と普及に努めてきました。そして平成20年、定年退職後、国立病院機構東名古屋病院の病院長として、また附属リハビリテーション学院の校長として結核、神経難病等の国策医療に従事し、またリハビリテーションを中心とする脳卒中の連携医療体制を構築してきました。こうした経験を活かし、当院では、現在進めている心臓と脳疾患の救急医療、内科、外科連携によるセンター化された専門医療、そして糖尿病を始めとする生活習慣病の予防医療等において、質の高い、最適な治療を皆様方に安心、安全に受けて頂けるよう、全職員と共に努めてまいります。

次に皆様方が心を痛めておられる3月11日に発生した東日本大震災についてお話します。マグニチュード9.0の巨大な地震、想像を絶する15mを超える津波が一瞬にして2万7000人以上の生命を奪いました。また岩手、宮城、福島を中心とする被災地では、交通網、物流網が寸断され、家族、家屋、そして郷土を奪われた被災者の方々は、食料、飲料水、寝具、医薬品などの生活必需品もなく、孤立した家屋や避難所で寒さ、飢え、病に苦しみ

ながら過ごしておられました。そして最大の問題は、同時に発生した原発事故であります。東京電力の福島第一原発では、水素爆発により建屋が吹っ飛び、放射性物質の漏出による非常事態が今でも続いています。水道水、野菜、原乳、魚などの食料にも放射能汚染が広がり、首都圏を含めた広域の住民に不安と風評被害を及ぼしています。電力、石油などのエネルギー不足、特に計画停電により、長期の経済停滞が予想され、日本は今、国家的危機に直面しています。一方、悲しみと無力感が漂う被災地に全国の各地域、各団体、各個人からは迅速な復旧に向け、暖かい支援と励ましが届けられ、また世界各国からも強力な支援をいただきました。当院も被災地に医療支援チームを派遣し、医療、生活支援を始めています。そして三ヶ月経過した今、ようやく復興に向けた本格的な取り組みが始まるうとしています。私はこの間、新聞、テレビで、また派遣チームから震災の実情を見聞きするにつれ、我々日本人は科学、文化、経済の進歩により、豊かな文明社会を築いてきましたが、一方では、大自然の中で生き、生かされている事も実感しました。本震災では自然に向き合って、謙虚で感謝と努力を重ねて生活して来られた東北の被災者の姿から、また全国から立ち上がった心ある支援者の姿から、古来受け継がれてきた日本人としての「心と絆」を思い出させてくれました。そこで今こそ、同じ日本人として、東日本大震災と日本社会の復興、さらにはいつ起こるかもしれない東海地震について、地域の皆様方と当院の役割を考えてみたいと思っています。皆様方のご意見をお寄せ下さい。

今月号のお知らせ

- ①院長就任のご挨拶
..... 院長 吉田 純
- ②最近の冠動脈バイパス術
..... 心臓血管外科 寺西 克仁
- ③災害派遣活動について
.....

- ④私の車いす生活
..... 渡辺 広典
- ⑤「よろず相談室」について
..... 連携室課長 森本 正人
- ⑥床ずれ予防のポイント
..... 皮膚・排泄ケア認定看護師 櫻井 由紀子
- ⑥編集後記